

2025 年度(令和 7 年度)学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 4	福山市立霞小学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月16日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 地域を大切に思う児童生徒を育成して欲しい。 CS 導入にあたり、地域にも説明をし、どんな協力体制を築けるか、一緒に考えたい。 児童・生徒と共に会議をし、地域課題を考えていきたい。 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力はおおむねついているが、思考力に課題がある。 人間関係づくりが苦手な子どもが増えてきている。 長欠・不登校の子どもが一定数いて取組をしているが改善が難しい。 	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	知識・技能 課題発見・解決力 主体性 気づき 考え 行動する 子ども 子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進 地域課題に気づき、地域と共に課題解決できる児童・生徒の育成 教職員の笑顔・元気
--	---	--	--

III 自校

ミッション 鷹取中・光小と連携しながら、資質・能力の育成を図ることを通して、地域に誇れる学校を創造する。	育成する力 資質・能力	知識・技能	課題発見・解決力	主体性
学校教育目標 自他を尊重し、主体的に学び続ける児童の育成	めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題における課題を発見し、よりよい解決方法を考え実行し、次の学習につなげることができる。 相手の気持ちを理解しながら意見を伝え合うことを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や興味・関心等に基づいて、自分の意思をしっかりともち、よりよい生活になるように行動することができる。 自分のよさや個性を知り、自分の言動が相手や他者へ影響を及ぼすことを理解し、行動することができる。
現状 <児童> ○基礎的な知識や技能が定着している。 (単元末テスト通過率 国語(知識)84.3% 算数(知識)86.2%) ○生活・総合で地域の一員であることを意識して学び、学んだことを発信することができる。 ○新体カテストのボール投げの記録が、前年度の同学年の平均値を超えたグループが12グループ中10グループで、目標を達成している。 ●見つけた課題を、試行錯誤しながら学ぼうとすることに課題がある。 ●授業で分からないことがあった時、どんなことが分からないか言葉で説明することができる児童が80%未満である。 ●自分で目標を設定し意識して行動できる児童が増えたが、達成に向けて粘り強く努力を続けられる児童は多くない。 ●新体カテストの立ち幅跳びでは、目標を達成できなかった。 <授業> ○つきたい力を意識した授業づくりを行い、その力がつくまでやり切らせることができた。 ●試行錯誤して学ぶ児童主体の学習活動を行って、児童が粘り強く課題を解決する力や表現力をつける必要がある。	研究 テーマ 内容等	互いを尊重しながら主体的な学びを生み出す授業の創造 ～学校図書館の活用を通して、思いや考えをもち、表現できる子ども～ <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を活用した学習展開(教材研究) 思いや考えをもち、表現できる子どもの姿の追究 		
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが見つけた課題を試行錯誤しながら学ぶ授業 子どもが思いや考えをもち、表現することができる授業 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立霞小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進	★	継続	・自分の成長を実感することができる教育活動を推進する。 ★児童アンケート 「学校生活を通して自分の成長を実感することができる」児童の割合100%	①自分の考えの根拠を明確にして、目的や相手意識をもって自己表現する場を設定する。 ②児童のつまずきや課題と教科の系統性をもとにした授業展開や手立てを行う。 ③自分で決めた目標を、達成するために取り組んでいることを教師と一緒にふり返ったり価値づけたりする場を設定する。	①児童アンケート 「見つけた課題を解決する方法を、試行錯誤しながら試している」児童90.0% 「自分の考えや意見が上手に伝わるよう、工夫して表現している」児童90.0%以上 ②単元末テスト(国語、算数)通過率87.0%以上 算数の思は80.0%以上 ②5年生の新体力テストの記録が前年度の5学年の全国かつ県平均値以上。 8種目中4種目 ③児童アンケート 「自分で決めた目標を達成するために意識して行動している。」児童の割合95.0% 「自分で決めた目標を達成することができた。」児童の割合85.0%以上								

1	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題に気付き、地域と共に課題解決できる児童・生徒の育成 	新規	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員としての意識をもち、自分から地域と相互に関わり合いながら、成長できる児童を育成する。 	①地域の現状を知ったり調べたりする場を設定し、学校生活を通して、様々な場面で地域と関わる機会を設ける。 ②児童・教職員でありさつ運動に取り組む。	①児童アンケート「学校生活や学習の中で、地域と関わっていると感じる」児童の割合90.0%以上 ②児童アンケート「先取りあいさつをすることができる」児童の割合90.0%以上									
1	教職員の笑顔・元気	新規	<ul style="list-style-type: none"> 個性を大切に、やりがいを感じながら、個々の能力を十分に発揮できる学校風土をつくる。 <p>★教職員アンケート「個性を認められている」の肯定的評価84.0%以上</p>	①自分の強みを生かした取組を実践する。	①教職員アンケート「本音を気兼ねなく発言できている」教職員の割合84.0%以上 「自分の個性が認められているという実感がある」教職員の割合84.0%以上									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。